



Dynavector DV Karat 17DX Cartridge

取扱説明書

■ はじめに

この度はDV Karat 17DXをご購入いただき誠にありがとうございます。Karatシリーズはダイナベクター社の振動工学に基づく理論より設計されたカートリッジで、精密加工技術により実現された微小振動系を持つMCカートリッジです。カンチレバー長も1.7mm長と大変短く、とてもデリケートな製品ですので、取扱いには十分な注意が必要です。その優れた性能を十分発揮させるため、ご使用前には本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

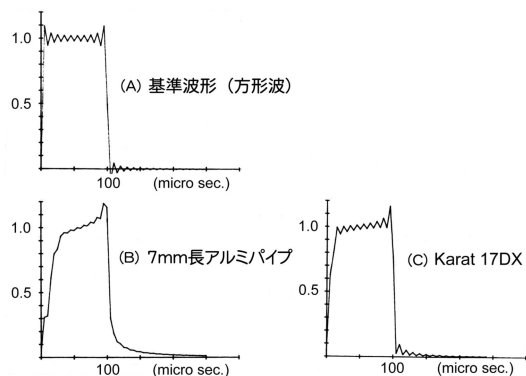
■ 主な特徴と改良点

1. Karat 17DXの改良点

新モデルKarat 17DXの開発にあたっては、主にメインボディの材質変更的を絞り、いくつか材料を試作試聴した結果、真鍮（Bs）ムク削り出しメインボディを採用することに決定しました。これによりKARATシリーズの優れた周波数特性が更に飛躍し、伸びやかで癖のない高音域再生を堪能できます。また従来のネオジム磁石を磁気抵抗の少ないサマリウムコバルト磁石に変更することで、音の立ち上がりも早く、且つ分解能の高い明瞭な音場再生を実現しています。

2. 波束分散理論

レコードからの情報を正確に伝えるには周波数にのみ着目しては十分ではありません。同じ周波数特性をもっているカートリッジによって再生音が違うのは周知の通りです。波束分散理論はこの疑問を解くひとつの鍵となっています。



波束分散による波形の変化を、計算によってシミュレートした結果を図1に示します。図(A)は5KHzの方形波を200次までの高調波で表したもので、この波形がカンチレバーに加えられる入力信号とします。図(B)、(C)はカンチレバーを伝搬した後の出力信号に相当します。(B)は従来より使用されている一般的な7mm長のアルミパイプカンチレバー、(C)はKarat 17DXの1.7mm長ダイヤモンドカンチレバーをそれぞれ伝搬した場合の波形で、カートリッジ自体の周波数特性は全く同じと考えてのうえです。Karat 17DXの波束伝搬速度がいかに優れているかがお判りになると思います。

要約しますと、波束分散理論によると固体中を音が伝播する場合、高い音と低い音ではその伝播速度が異なり、伝播波形が乱れます。より正確な固体伝播を実現するには、音が伝播する経路（距離）をなるべく短く、且つ伝播速度の速い材質を使用するという事なのです。



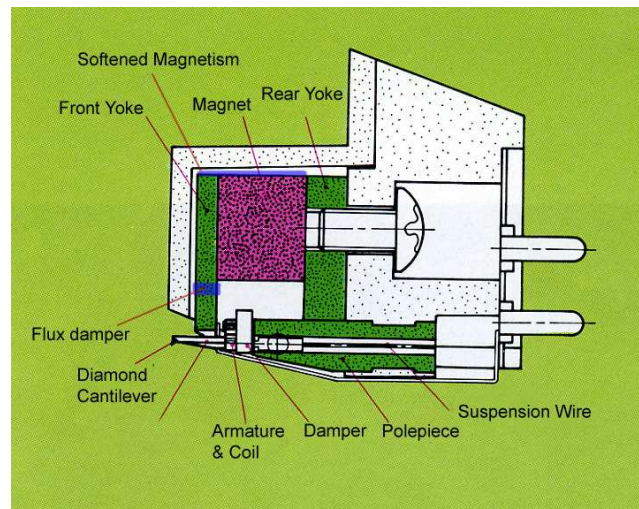
Karatシリーズで採用した1.7mm極短、且つダイヤモンドカンチレバーの採用は、この理論的事実から生まれました。Karatシリーズは40年以上に亘、数々の改良を加えた後、最新のKarat 17DXに至っています。超小型振動系により理論上100KHz近くまで伸びたその再生周波数帯域の広さとそのフラットネスは最新のデジタルメディアを凌駕し、他のカートリッジの追従を許しません。

3. 独自の技術を採用した磁気回路

ダイナベクターカートリッジのもう一つの特長は、独自の磁気回路設計にあります。磁気回路の磁束変動の干渉を消去するフラックスダンパーと強力な磁気回路の内部磁気抵抗を低減するソフト化マグネットのコンビネーションにより、その再生音は極めてスムーズ且つ自然でMCカートリッジの持つ本来の優位性を確保しています。

4. 精密製造技術&高度な組立技術

Karat 17DXではその数値が示すようわずか1.7mm長の極微細ダイヤモンドカンチレバーに70ミクロン角マイクロリッジスタイラスを装着しています。この超小型の振動系の構造は他のMCカートリッジの常識を破る極めて小さなもので、アマチュアには12ミクロンという超極細線が巻かれています。これは当社独自の巻き線技術によりはじめて可能になったものです。17DXには製作が困難なMCカートリッジの中でも、際立って高度な組立て技術と数々のノウハウが搭載され、まさに高度な職人芸と長い経験なくしては製作不可能なカートリッジです。

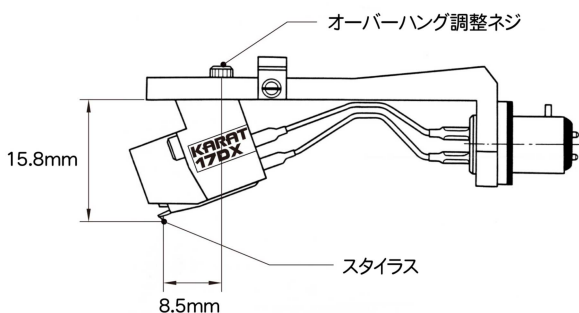


■ 取扱方法

1. トーンアームへの取り付け

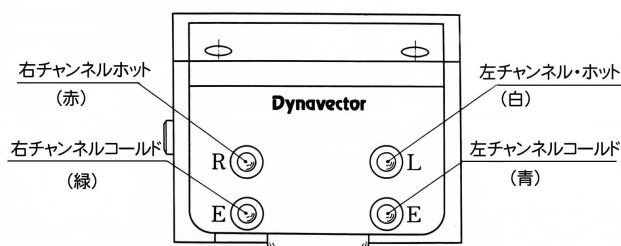
カートリッジ本体を付属ネジ（M2.5ソケットスクリュー）で、お手持ちのヘッドシェルにしっかりと固定してください。ボディのネジ深さは5mmですのでご使用のヘッドシェルの厚さに合わせて、適切な長さの付属ねじを使用ください。

前後取り付け位置は使用されるトーンアームのオーバーハングに合わせます。詳細は使用されるトーンアームの取扱説明書に準拠してください。



2. 接続方法

下記ピン配置に従い、それぞれの端子をリード線でヘッドシェル端子に正しく接続してください。接続に際してはピンセット等を使用し、半田付けは絶対に避けてください。リード線の内部断線の原因となります。



3. 高さ調整

カートリッジをヘッドシェルに取り付けた状態でトーンアームの高さ調整を行います。カンチレバー長が1.7mmととても短い為、レコード面とカートリッジ本体との隙間が僅かしかありません。アームの高さ調整はレコード面とトーンアームが水平になるよう正しくセットしてください。

4. 針圧調整

適正針圧は1.8~2.0gで、室温20℃が弊社の基準です。室内温度が高い場合はやや軽め、低い場合はやや重めの針圧でお使いください。Karat 17DXはカンチレバー長が短い為、針圧が大きすぎるとボディ下面がレコード面に接触する恐れがありますので、この点をご注意ください。

5. 出力電圧とヘッドアンプ

出力電圧は0.3mVですのでヘッドアンプや昇圧トランスが別途必要になります。ヘッドアンプの推奨負荷抵抗は100Ω以上、昇圧トランスは約30~40Ωでご使用ください。

■ 使用上の注意点

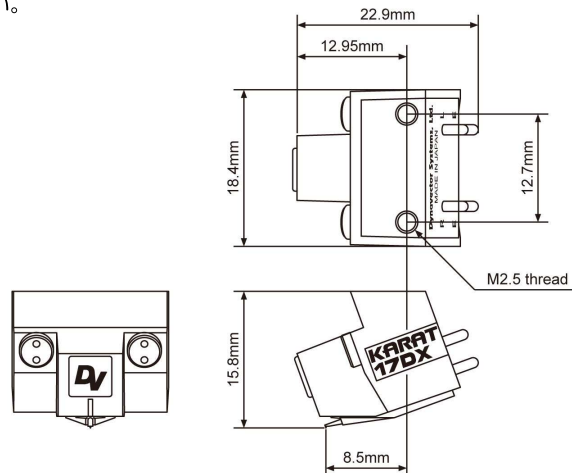
● カンチレバー長が短い為ゴミの影響を受けやすく、ゴミが付着すると機能低下の原因となりますので、ノンアルコールタイプの良質なスタイラスクリーナーを使用し、演奏前にはレコード面や針先のクリーニングを行ってください。尚クリーナー液は浸け過ぎず、特にダンパーゴムに付着しないようにしてください。

● 針先のクリーニングは付属のブラシでカンチレバーの根元から先端に向かって、そっと掃くようにほこりを除いてください。逆方向にブラシでこすりますと、カンチレバー破損の危険があります。

● インサイドフォースキャンセラーは正しくセットしてください。カンチレバー長が短い為、インサイドフォースの影響を受けやすく、極端な場合は針曲がりします。軽度な針曲がりの場合は、指先でそっと触れることにより修正できます。

■ 針交換について

針交換が必要な場合は針交換価格にて新品にお取替えいたします。詳しくはお求めになったお店又は弊社までお問合せください。



■ 仕様

形式	: 微細構造低出力MCカートリッジ フラックスダンパー& ソフト化マグネット
出力電圧	: 0.3mV (1KHz, 5cm/sec)
周波数特性	: 20- 20,000Hz± 1dB
チャンネルバランス	: 1.0dB以下 (1KHz)
チャンネルセパレーション	: 25dB以上 (1KHz)
コンプライアンス	: 15 mm/N
インピーダンス	: 32Ω
推奨負荷インピーダンス	: 100Ω 以上
スタイラスチップ	: マイクロリッジ
カンチレバー	: 1.7mm長 ソリッドダイヤモンド
針 圧	: 1.8~2.0g
重 量	: 11.0g

ダイナベクター株式会社

101-0031 東京都千代田区東神田 3-2-7
TEL 03-3861-4341 FAX 03-3862-1650
URL <https://www.dynavector.co.jp/>